

市内活動グループ訪問記

ボランテア
福祉事業所
ありす工房さんにお話を伺った



令和3年も残すところ9日となった12月22日(木)特定非営利活動法人ほっこりありす工房さんへおじゃましました。

当日はお忙しい中、所長の長森さんにお話を伺いました。

*ありす工房について教えていただきました。

「おもに知的障がい者の方が通う日中活動の場所です。人数は男性の名、女性の名の計12名、職員7名のうち1日の名をボランティアで活動しています。利用者さんは、親が送迎したり、遠い方は東林間から電車、バスを乗り継いで通っています。

以前は陽光台におりましたが、建物が古く、手狭になったために、「横山」に利用者さん、職員さんもそのまま移転してきました。あまり入れ替えもなく、新しく入所してきた方もいますが、20年位通っている方もいます。自分で言うのもなんですが、家庭的に和気あいあいとしたところです。

きょうの所長さん、職員さんの思いが利用者さんに通うの長へ通って来られるのでしょね。



所長の長森さん、入り口にはかわいい「ありす工房」の文字が！

*1日の流れは、

- 9時までに来所
- 9時から準備
- 9時半から朝の会
- ラジカセ体操
- その後10時から仕事に入ります



*主な活動は、

「はた織り」野菜の宅配です。はた織りは各々にはた織機がありますので布を織り製品に仕立て販売。仕立てはここでできる物もあれば、有償ボランティアさんにお願ひもしています。

織り上がった布で何を作ろうかと考えたり、織る前に何を作ろうかと考え、デザインノートを参考にしたり、自分のイメージをひくらませ、職員のアドバイスも受けながら糸や色を選び織っていくそうです。

当日もマフラーの仕上げやバッグを作るための準備をしていました。



一日でこんなに長く織る人も！

当日織り上がった布を見せていただきました。昨日から始めて今日織り上がったという4〜5m位ある布です。りんこの王林をイメージして織ったという布は、黄色とグリーンの色合いが絶妙でした。また、渋沢栄一をイメージしたという布も、まさに藍染のような藍色に仕上がっていました。大きい布でも2日位で織り上げるなんてすごい集中力ですね。布はバッグ、マフラー、ショール、ベスト、ポーチ、スマホケース等に仕立てられて、どれも細部までも丁寧で作られています。製品はあじさい会館内のバオバブでも販売されています。



自分で配色を考えて織ります

またSDG&と言われる前から、余った糸や捨てていた布で紐を織り、ネームカードの紐として使っていました。ちょっと前になりますが、カメラの紐として使われ雑誌にも載ったそうです。

利用者さんにお話を伺いました。「何を作りますか?」「バッグ」「はた織りはどうですか?」「難しいです」と手を休めることなく答えられました。

野菜の宅配は、地元の家々から安心安全の有機野菜を仕入れ、仕分け、集計を職員さんと一緒にやり配達します。美味しいと評判だそうです。

*地域との交流は、

「ありす工房」を夏と冬の年2回開催。夏は展示販売、はた織り体験を通じた交流を。冬は社会に出ましようという形で場所を借りてやっています。中々場所を借りるのも難しく、工房で行っています。

他に相模大野アートクラフト市にも、福祉事業所としてではなく一般枠で利用者さんと一緒に参加されているそうです。楽しみにしているバス旅行も今は中止になっていますと残念そうでした。

早く以前のような日常に戻ってきて欲しいですね。

(杉崎・小田)

*特定非営利活動法人ほっこりありす工房

所長 長森 知尚

TEL 0277-605422

相模原市中央区横山2-7-8

TEL/FAX 04277-605488

